

だい しょう さっぽろし げんじょう かだい
第2章 札幌市の現状と課題

さっぽろし げんじょう
1 札幌市の現状

さっぽろし しょう ひと てちょうしよじしやすう すいい
(1) 札幌市の障がいのある人（手帳所持者数）の推移

さっぽろしはっこう かくしゅしょうがいしやてちょう しんたいしょうがいしやてちょう りょういくてちょう せいしん
 札幌市発行の各種障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神
 しょうがいしやほけんふくしてちょう ねんどまつじてん しよじしやすう ごうけい やく
 障害者保健福祉手帳）の2016年度末時点での所持者数の合計は、約
 12万6千人となっています。

ひょう ねんど やく まん せんになん げんざい やく
 【表1】のとおり、2013年度の約12万1千人から、現在までに約
 せんになんぞうか てちょうしよじしやすう の わ
 5千人増加し、手帳所持者数が伸びていることがわかります。

しんたいしょう しや ねんど げんしょうけいこう ちてきしょう
 身体障がい者は2015年度から減少傾向にあります。知的障
 しや せいしんしょう しや ねんねんぞうか しんたいしょう しや げんしょうすう
 がい者、精神障がい者は年々増加しており、身体障がい者の減少
 うわまわ こんご さっぽろし しょう ひと かず ふ
 を上回っていることから、今後も札幌市の障がいのある人の数は増
 えしていくことが推測されます。

ひょう かくしょう てちょうしよじしやすう すいい
【表1】各障がい手帳所持者数の推移

がつまつじてん さっぽろし じんこう がつ にちじてん になん
 （3月末時点、ただし、札幌市の人口のみ4月1日時点。）（人）

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
さっぽろし じんこう 札幌市の人口	1,928,932	1,934,649	1,941,127	1,946,407
しんたいしょう しや 身体障がい者	84,412	84,221	84,049	83,564
ちてきしょう しや 知的障がい者	15,177	15,910	16,666	17,375
せいしんしょう しや 精神障がい者	21,419	22,884	23,715	24,788
てちょうしよじしやぜんたい 手帳所持者全体	121,008	123,015	124,430	125,727

(2) 障がい別の状況

◆ 身体障害者手帳

【表 2】によると、手帳所持者数は肢体不自由が最も多く、次いで内部障がいとなっています。

また、【表 3】のとおり、全体の約7割を占める65歳以上の所持者数が、年々増加していることがわかります。

【表 2】身体障害者手帳の障がい状況別推移 (3月末時点)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
視覚障がい	4,540	4,534	4,480	4,424
聴覚・平衡機能障がい	5,296	5,302	5,288	5,278
音声・言語又はそしゃく機能障がい	810	811	815	833
肢体不自由	49,982	49,415	48,788	48,018
内部機能障がい	23,784	24,159	24,678	25,011
合計	84,412	84,221	84,049	83,564

ひょう しんたいしょうがいしゃてちょうしょじしゃ ねんれいべつすい がつまつじてん
【表 3】身体障害者手帳所持者の年齢別推移 (3月末時点)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
18歳未満	1,607	1,596	1,493	1,484
18～65歳未満	26,853	25,868	23,055	22,387
65歳以上	55,952	56,757	59,501	59,693

◆ **療育手帳**

【表 4】のとおり、どの程度も年々増加しており、特にB-（軽度）の所持者数が増えています。

また、【表 5】のとおり年齢別では、18歳以上の所持者数が年々増えています。

ひょう りょういくてちょう しょう ていどべつすい がつまつじてん
【表 4】療育手帳の障がい程度別推移 (3月末時点)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
A（重度）	5,467	5,557	5,622	5,788
B（中度）	3,578	3,641	3,784	3,836
B-（軽度）	6,132	6,712	7,260	7,751
合計	15,177	15,910	16,666	17,375

ひょう りょういくてちょうしょじしゃ ねんれいべつすい がつまつじてん
【表 5】療育手帳所持者の年齢別推移 (3月末時点)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
18歳未満	4,696	4,862	4,698	4,757
18歳以上	10,481	11,048	11,968	12,618

◆ **精神障害者保健福祉手帳**

身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障がいの手帳所持者のうち、この4年間でもっとも増加してきているのが、精神障がいです。【表6】のとおり、2013年度と2016年度を比較すると3千人以上増えていることがわかります。

【表6】精神障害者保健福祉手帳の障がい程度別推移

(3月末時点)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
1級	1,331	1,390	1,399	1,365
2級	11,615	12,228	12,652	13,079
3級	8,473	9,266	9,664	10,344
合計	21,419	22,884	23,715	24,788

◆ **札幌市の難病患者数(特定医療費(指定難病)受給者証所持者数)**

平成25年4月に施行された障害者総合支援法では、制度の谷間のない支援を行うため、障がいのある人の範囲に、新たに難病患者が加わりました。

これにより、症状の変動により身体障害者手帳を取得することができなかった人も、障害福祉サービス等を利用できるようになりました。

平成29年4月1日現在で358疾病が障害福祉サービス等の対象となっています。

また、平成27年1月に難病の患者に対する医療等に関する法律が

施行され、医療費助成の対象となる難病が拡大されました。平成29年4月1日現在で330疾病が医療費助成の対象となっています。

【表7】特定医療費（指定難病）受給者証所持者数（3月末時点）

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
16,664	16,916	20,587	21,564

※出展：札幌市衛生年報より引用

2 さっぽろ障がい者プランの振り返り

平成27年3月に改定したさっぽろ障がい者プランでは、「障がいのある人もない人も、市民誰もが互いに人格と個性を尊重し、支え合う共生社会の実現」を基本理念に、障がいのある人が地域で安心して生活していくことができるよう、障がい者施策の充実に向け、11の施策分野を設定し、取組を進めてきました。

各分野の主な事業について、さっぽろ障がい者プランの進捗状況を振り返ります。

分野1 理解促進	
重点取組名	平成28年（2016年）度実績
障害者週間記念事業の実施 ⇒175ページ参照	<ul style="list-style-type: none"> ●街頭PRとして、各区役所の周辺にて、計6,000個の普及啓発品を配布 ●視覚障がいのある人等による、あんま・マッサージ治療の無料奉仕を92名に実施 ●市役所・区役所・地下鉄各駅等に啓発ポスターを掲示

<small>じゅうてんとりくみめい</small> 重点取組名	<small>へいせい ねん ねん どじっせき</small> 平成28年（2016年）度実績			
<small>しょう どうじしゃ</small> 障がい当事者の <small>こうしはけん</small> 講師派遣	<small>しょう しょうしやこうしょうせいこうざしゅうりょうせい めい</small> ●障がい者講師養成講座修了生：17名 <small>こうしはけんかいすう かい</small> ●講師派遣回数：106回 <small>こうしはけんにんすう めい の にんすう</small> ●講師派遣人数：135名（延べ人数） <small>ちょうこうしゃすう めい の にんすう</small> ●聴講者数：6,323名（延べ人数） <small>さんこう はけんさき かいすう うちわけ</small> 【参考】派遣先と回数の内訳			
	<small>がっこう</small> 学校	<small>きぎょう</small> 企業	<small>ちいき</small> 地域	<small>た</small> その他
	68	12	10	16

ぶんや せいかつしえん 分野2 生活支援	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	へいせい ねん ねん どじっせき 平成28年（2016年）度実績
そうだんしえんじぎょう 相談支援事業の じゅうじつ 充実	● しょう しゃ 障がい者相談支援事業 ・ 市内20か所で実施 ・ 2016年度相談支援件数：76,533件 ・ 2016年度末登録者数：6,337人 ● しょう じ 障がい児等療育支援事業 ・ 市内5か所で実施 ・ 訪問29件、外来117件 ・ 施設支援434件
じゅうどしょう 重度障がいのある ひと たい しえん 人に対する支援 ぱーそなるあしす （パーソナルアシス たんすじぎょう タンス事業） ⇒64～65ページ さんしょう 参照	● りようしゃすう めい 利用者数：70名 ● かいじょうろくしゃすう めい 介助登録者数：515名 ● いこうじかん ひとり へいきん じかん 移行時間（※）（1人あたり平均）172時間 /月 ● りようじかん ひとり へいきん じかん つき 利用時間（1人あたり平均）223時間/月 ※移行時間とは、……支給決定を受けた じゅうど ほうもんかいご じかん ぱーそなるあしすたんす 訪問介護の時間をパーソナルアシスタンス じぎょう いこう じかん 事業に移行した時間のことです。

ぶんや 分野3 ほけん 保健・医療	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	へいせい ねん 平成28年(2016年) ねん ど じっせき 度実績
にゅうようじけんこうしんさ 乳幼児健康診査	<p>げつじけんしん ●4か月児健診</p> <p>じゆしんしゃすう じつ にん のべ にん 受診者数 実14,301人(延15,668人)</p> <p>さい げつじけんしん ●1歳6か月児健診</p> <p>じゆしんしゃすう じつ にん のべ にん 受診者数 実13,983人(延15,379人)</p> <p>さいじけんしん ●3歳児健診</p> <p>じゆしんしゃすう じつ にん のべ にん 受診者数 実13,740人(延14,148人)</p> <p>さいじけんしん ●5歳児健診</p> <p>じゆしんしゃすう じつ にん のべ にん 受診者数 実 618人(延 619人)</p>
じりつしえんいりょう 自立支援医療	<p>いくせいりょう ページ さんしょう ●育成医療(⇒175ページ参照)</p> <p>きゅうふけんすう けん 給付件数: 1,656件</p> <p>こうせいりょう ページ さんしょう ●更生医療(⇒175ページ参照)</p> <p>きゅうふけんすう けん 給付件数: 52,206件</p> <p>せいしんつういんいりょう ページ さんしょう ●精神通院医療(⇒175ページ参照)</p> <p>きゅうふけんすう けん 給付件数: 786,401件</p>

ぶんや せいかつかんきょう 分野4 生活環境	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	へいせい ねん ねん どじっせき 平成28年(2016年)度実績
ほどう ばりあふりー 歩道バリアフリー せいびじぎょう 整備事業	●重点整備地区(⇒176ページ参照)の生活 かんれんけいろ えんちやうやく きろめーとる ほどう 関連経路として、延長約8 km の歩道 ばりあふりーこうじ じっし バリアフリー工事を実施
ちかてつ しでん 地下鉄・市電におけ あんぜんたいさく る安全対策	●東豊線に可動式ホーム柵の設置作業を行 い、地下鉄3線全駅への設置が完了 ●市電の資生館小学校前停留場のバリア ふりーかせいび じっし フリー化整備を実施

ぶんや きやういく はったつしえん 分野5 教育・発達支援	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	へいせい ねん ねん どじっせき 平成28年(2016年)度実績
しょう じほいくじゆんかい 障がい児保育巡回 しどう 指導	●認可保育所293園(認定こども園含む)、 ちいきがたほいくじぎやうしよ えんちゆう しょう じ 地域型保育事業所78園中、障がい児の うけい えん めい 受入れは168園348名 ●巡回指導回数:340回
ひとりひとり まな そだ 一人一人が学び育つ ための教育的支援 じゅうじつ の充実	●学びのサポーター(⇒176ページ参照) かつようこうすう こう 活用校数:282校 ●支援対象児童生徒数:1,306人

分野6 雇用・就労	
重点取組名	平成28年(2016年)度実績
就労相談支援体制 の充実(障がい者 就業・生活相談 支援事業)	<ul style="list-style-type: none"> ●委託事業所：4か所 ●ジョブサポーター(⇒176ページ参照)： 7名配置(1名増) ●相談件数：23,333件 ●就職に結びついた件数：150人
製品の販路拡大支援	<ul style="list-style-type: none"> ●元気ショップ(⇒177ページ参照) 売上：72,096,348円 来客数：129,192人 ●元気ショップいこ～る(⇒177ページ 参照) 売上：26,384,844円 来客数：33,111人

分野7 情報・コミュニケーション	
重点取組名	平成28年(2016年)度実績
点字・音声による 情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ●点字さっぽろ・声のさっぽろ(デイジー版) の発行 利用者数：690人(延5,253人)

分野8 スポーツ・文化	
重点取組名	平成28年（2016年）度実績
障がい者スポーツ の振興	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者スポーツ体験会の開催 来場者数：200人 ●パラリンピック競技教室の開催 参加者数：29人

分野9 安全・安心	
重点取組名	平成28年（2016年）度実績
災害時の緊急受入 れに関する関係機 関との協定	<ul style="list-style-type: none"> ●札幌市と協定を締結している、団体の加盟施設と合同の大規模避難訓練を実施するとともに、訓練後の課題の抽出・反省を行う「避難訓練ふりかえり会」を実施
企業などとの連携 推進	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者が区に通報した件数：8件 ●事業者が警察署・消防署に通報した件数10件 ●事業者が地域関係者と連携し対応した件数 6件 ●事業者の再訪問や緊急連絡先への連絡等で完結した事例：15件

ぶんや 分野10 さべつ かいしょう けんりようご 差別の解消・権利擁護	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	へいせい ねん 平成28年(2016年) ねん ど じっせき 度実績
しょうがいしゃ さべつ かいしょう ほう 障害者差別解消法 えんかつ しこう の円滑な施行	<ul style="list-style-type: none"> ●「障害者差別解消法を踏まえた札幌市の対応方針」及び「共生社会の実現に向けた札幌市職員の接遇要領」を作成し、職員研修等の取組を推進している。
けんりようご にかか ぞうだん 権利擁護に係る相談 しえん じゅうじつ 支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者あんしん相談運営事業(⇒148ページ参照) ぞうだんけんすう けん 相談件数：2,496件 ●成年後見制度制度利用支援事業(⇒138ページ参照) しちょうもうしたてけんすう けん 市長申立件数：14件

ぶんや 分野11 ぎょうせい さーびす 配慮 行政サービスにおける配慮	
じゅうてんとりくみめい 重点取組名	へいせい ねん 平成28年(2016年) ねん ど じっせき 度実績
しょくいん たい しょう 職員に対する障がい者理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●札幌市職員に対し、職員用ホームページ上に特設ページを設けるなど、障害者差別解消法に関する情報を発信するとともに、障がい種別に応じた配慮例等を周知している ●全部局において職場研修の実施 じっしかいすう かい じゅうこうしゃすう 実施回数：150回 受講者数：5,529人

3 平成28年(2016年)度障がい児者実態等調査の結果

2016年11月から12月にかけて行った、障がい児者実態等調査(⇒153ページ参照)の結果と、2013年度に行った同じ調査の主な結果を比較し、札幌市の取組の効果について振り返ります。

【調査対象】

- 障がいのある人(6,000人)
18歳以上の身体障がい・知的障がい・精神障がいのある人
- 障がいのある子ども(1,000人)
18歳未満の身体障がい・知的障がい・精神障がいのある人
- 難病患者(500人)
難病患者団体の会員の人
- 施設入所者
主に身体障がいのある人向けの施設または主に知的障がいのある人向けの施設に入所している人
- 精神科病院入院患者
1年以上、精神科病院に入院している人

しょう ひと たい しみんりかい 障がいのある人に対する市民理解		
● しょう ひと たい あんけーとちょうさ 障がいのある人に対するアンケート調査		
	ねんどちょうさ 2013年度調査	ねんどちょうさ 2016年度調査
ふか おも 深まっていると思う	8.8%	6.8%
ふか おも まあまあ深まっている と思う	20.5%	19.8%
● しょう こ ほごしゃ たい あんけーとちょうさ 障がいのある子ども（保護者）に対するアンケート調査		
	ねんどちょうさ 2013年度調査	ねんどちょうさ 2016年度調査
ふか おも 深まっていると思う	2.7%	2.1%
ふか おも まあまあ深まっている と思う	16.3%	12.2%
● なんびょうかんじゃ たい あんけーとちょうさ 難病患者に対するアンケート調査		
	ねんどちょうさ 2013年度調査	ねんどちょうさ 2016年度調査
ふか おも 深まっていると思う	5.3%	3.7%
ふか おも まあまあ深まっている と思う	21.2%	15.7%

しょう ひと たい しみんりかい ちょうさ ねんど
障がいのある人に対する市民理解では、どの調査でも2013年度
ちょうさ ひく しょう ひと たい りかいそくしん すす
調査より低くなっており、障がいのある人に対する理解促進が進ん
でいない結果となりました。

障 がいのある人が希望する生活のためにあればいいこと		
● 障 がいのある人に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
高 齢になっても安心 して生活できること	45.7%	54.4%
困 ったときに相談で きて教えてくれる 場 所	36.9%	39.3%
● 障 がいのある子ども（保護者）に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
高 齢になっても安心 して生活できること	38.0%	31.3%
困 ったときに相談で きて教えてくれる 場 所	34.9%	31.3%
● 難 病患者に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
高 齢になっても安心 して生活できること	52.7%	47.2%
困 ったときに相談で きて教えてくれる 場 所	39.8%	32.4%

とく くに、障 がいのある人と難 病患者が、高 齢になった時の生活に
ふ あん かか 不安を抱えていることがわかり、難 病患者を含む障 がいのある人の

高齢化への対応が求められています。

また、どの調査でも依然として30～40%の人が困ったときに相談できる場所を求めており、生活する上でのニーズが多様化・複雑化していることがうかがえます。

退所・退院に向けての問題点や必要な生活支援		
●主に身体障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
夜間や緊急時の支援に不安	34.3%	74.0%
服薬管理を含めた医療ケアに不安	33.6%	38.0%
●主に知的障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
夜間や緊急時の支援に不安	42.3%	51.1%
服薬管理を含めた医療ケアに不安	33.6%	24.3%
●精神科病院入院患者		
	2013年度調査	2016年度調査
退院に向けての生活支援として訪問看護サービスが必要	52.7%	47.2%

施設に入所している人は、夜間や緊急時の支援と服薬を含めた医療ケアに不安を感じており、精神科病院入院患者も訪問看護サービスを求めていることがわかり、施設に入所している人や精神科病院入院患者の地域移行に当たっては、地域生活を支えるための医療を含むサービス提供基盤の一層の充実が必要となります。

施設に入所している人の年齢と障害支援区分		
●主に身体障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
年齢	2013年度調査	2016年度調査
20歳未満	0%	8.0%
20代	4.9%	2.4%
30代	12.4%	16.0%
40代	14.1%	12.0%
50代	19.8%	18.4%
60～64歳	23.3%	13.2%
65歳以上	25.4%	30.0%
障害支援区分	2013年度調査	2016年度調査
区分1	0%	0%
区分2	0%	0%
区分3	6.7%	5.2%
区分4	20.1%	15.6%
区分5	29.7%	27.6%
区分6	43.5%	51.6%

●主に知的障がいのある人が入所する施設に対するアンケート調査		
年齢	2013年度調査	2016年度調査
20歳未満	0%	0.2%
20代	16.6%	14.6%
30代	27.2%	24.1%
40代	23.3%	23.7%
50代	14.0%	14.8%
60～64歳	5.4%	7.3%
65歳以上	12.7%	15.4%
障害支援区分	2013年度調査	2016年度調査
区分1	0%	0%
区分2	1.8%	1.0%
区分3	7.4%	6.7%
区分4	18.8%	16.8%
区分5	25.2%	23.9%
区分6	46.8%	51.5%

主に身体障がいのある人が入所する施設、主に知的障がいのある人が入所する施設ともに、年齢が65歳以上の人の割合が増加しており、障害支援区分は区分6の人が増加していることから、施設に入所している障がいのある人は高齢化・重度化していることがわかります。

<small>こんご きょういく りょういく</small> 今後の教育や療育（⇒177ページ参照）について力を入れるべきこと		
<small>しょう こ ほごしゃ たい あんけーとちょうさ</small> ● 障がいのある子ども（保護者）に対するアンケート調査		
	<small>ねんどちょうさ</small> 2013年度調査	<small>ねんどちょうさ</small> 2016年度調査
<small>しょう おう</small> 障がいに応じた <small>きょういくないよう じゅうじつ</small> 教育内容の充実	45.9%	42.3%
<small>ぎむ きょういく しゅうりょうご</small> 義務教育終了後の <small>しんろ しゅうしょくさき</small> 進路（就職先）の <small>かくほ</small> 確保	49.0%	41.8%
<small>つうじょう がっきゅう ほいく</small> 通常の学級、保育 <small>しょ ようちえん うけい</small> 所、幼稚園への受入れ <small>じゅうじつ</small> の充実	33.1%	30.5%

こんご きょういく りょういく ちから
 今後の教育や療育について力を入れるべきこととして、義務

きょういくしゅうりょうご しんろ しゅうしょくさき かくほ かいぜんけいこう
 教育終了後の進路（就職先）の確保は改善傾向にあるものの、

いぜん たか わりあい すいい こうもく よこ
 依然として高い割合で推移しており、ほかの項目も横ばいであること

しょう こ りょういく きょういく かか しえんきょうか
 から、障がいのある子どもへの療育や教育に係る支援強化につい

けいぞく かだい
 ては、継続した課題といえます。

差別を受けたり、いやな思いをしたことがあるか		
● 障がいのある人に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
ある	49.5%	46.6%
● 障がいのある子ども（保護者）に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
ある	69.0%	61.2%
● 難病患者に対するアンケート調査		
	2013年度調査	2016年度調査
ある	34.5%	35.2%

差別を受けたり、嫌な思いをしたことがある人の割合はどの調査でも高くなっており、「いやなことを言われた」「じろじろ見られた」という人が多くなっています。平成28年4月1日に施行された障害者差別解消法に基づき取組を一層推進する必要があります。

4 現状のまとめ

札幌市では、これまでも、さっぽろ障がい者プランに基づき、着実に施策を進め、法律が定める障害福祉サービス等も含めて、障がい福祉施策全般の充実を進めてきました。

しかしながら、札幌市が実施したアンケート調査結果にもあるとおり、障がいのある人、障がいのある子ども、その家族には、いまだに多くの生活のしづらさが残っています。

こうした課題に対応していくためには、国による法律や制度の改善だけでなく、札幌市の障がい福祉施策を組み合わせるなど、工夫して取り組むとともに、障がい福祉施策と、他部局の関連施策との連携も更に深めていく必要があります。

また、こうした施策の充実等においては、障がいのある本人の意見を最大限尊重して行っていくことが重要です。